

2025年日本国際博覧会 パビリオンの起工式を執り行いました
～「ガスパビリオン おばけワンダーランド」の建設～

2023年9月22日
一般社団法人 日本ガス協会

一般社団法人 日本ガス協会（以下、日本ガス協会）は、2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）に出展するパビリオンの起工式を、本日、夢洲の万博会場内建設予定地にて執り行いました。

ガスパビリオンは、「化けろ、未来！」のコンセプトに基づいて設計された、大きな三角形の断面が特徴的な、膜構造の建物です。外膜には放射冷却素材である「SPACECOOL」*¹を利用し、低炭素化に貢献します。

日本ガス協会は、安全を第一に、地球環境にも配慮しながら、2024年10月31日の竣工を目指して建設を進めてまいります。

*1：大阪ガス株式会社が開発した高性能、高耐久の光学フィルム。太陽光と大気からの熱を遮断し、熱吸収を抑えるだけでなく、放射冷却技術の原理により宇宙に熱を逃がすことで、ゼロエネルギーで外気より低温にする新素材。製造元はSPACECOOL株式会社

1. 起工式概要

起工式には、来賓として2025年日本国際博覧会協会の石毛事務総長他関係者、設計・建設等の主要パートナーとして株式会社日建設計、株式会社奥村組、株式会社電通、株式会社電通ライブ、並びに施主である日本ガス協会の関係者が参列し、安全で円滑な工事の進行と完遂を祈願しました。

【建築概要】

名 称	ガスパビリオン おばけワンダーランド
設計	基本設計：株式会社日建設計 実施設計：日建設計・奥村組設計共同企業体
工事監理・施工	株式会社奥村組
敷地面積	2,126.26 m ²
建築面積	1,231.43 m ²
延床面積	1,557.79 m ²
構 造	S造
着 工	2023年11月15日（予定）
竣 工	2024年10月31日（予定）



【左から、川島副会長（日建設計）、本荘会長（日本ガス協会）、石毛事務総長（2025年日本国際博覧会協会）、奥村社長（奥村組）】



【本荘会長の挨拶】

2. ガスパビリオンの特徴

ガスパビリオンは、鏡面の膜材を活用した、最大高さ約18mの三角形断面の特徴的な空間を持つ建物です。膜材には放射冷却素材の「SPACECOOL」を使用し、室内温度上昇の軽減や室内空調の冷房負荷の低減により、省エネ・低炭素化に貢献します。

建物の表情の変化や3Rを考慮した材料選定により、ガスパビリオンのコンセプト「化ける、未来！」を表現します。

① 建物の表情が「化ける」

鏡面の膜に周りの風景が映り込み、また、天候や時間帯による光の反射や、見る位置によって、さまざまな表情に変化します。夜もライトアップにより、「カーボンニュートラルな火」を演出します。



【建物外観パース（昼景）】



【建物外観パース（夜景）】

② 3Rで「化ける」

「SPACECOOL」を使用した膜構造の建物とすることで、少ない材料で快適な展示空間を実現します。また、パビリオンの主要な構造部材やバックヤードの大部分を、建設用リース材料で構成することでリユースを容易にしています。合わせて、パビリオンの建設で生じる「SPACECOOL」の端材を利用して、来場者用の日よけを設けるなど、廃棄物と建築資材の削減に努めつつ、快適なパビリオン空間を実現します。

再生材料の利用に加え、床材、空調設備などの会期後の再利用、膜材などの再生利用を積極的に行い、会期後も形を変えながら、引き続き、使い続けられることを目指します。



【「SPACECOOL」の端材を利用した日よけのイメージパース】

日本ガス協会は、2050年都市ガスのカーボンニュートラル化の実現に向けた取り組みを進めています。大阪・関西万博のガスパビリオン建築においても、低炭素化・脱炭素化に貢献してまいります。